



札幌市

春になり、鼻がむずむず、目がかゆいという人はいませんか？ 花粉症かもしれません。小学生もふくめ日本人の約4割がシラカバやハンノキ、スギなどの花粉になやまされ、「国民病」とも呼ばれています。札幌市のこども記者2人が花粉を観測している北海道立衛生研究所（札幌市北区）で花粉症について取材しました。

(上田貴子)

花粉症 天気良い日に予防

こども記者見ぶん録

西部菜花さん（清田緑小6年）と辻尾慶太さん（和光小4年）を研究所の研究職員・平島洗基さん（34）がむかえてくれました。花粉症は花粉が原因で起きるアレルギーです。花粉を鼻から吸いこんだりすると、体は「変な物」ととらえて「抗体」という武器をつくり、体の外に追いだそうとします。平島さんは「こまでは正常な体の反応です。しかし、花粉をく

家の中に持ちこまないで

り返し吸いこむと抗体の働きがどんどん激しくなり、鼻水が止まらなくなったり、涙が出たりするなど、花粉症の症状が出てきます」と言います。北海道立衛生研究所は1996年から花粉が飛ぶ状況を調べています。観測機器は屋上にあり、そこに設置した小さなガラス板にくっつく花粉の数や種類を調べます。札幌市内

では今年、2月28日にハンノキの花粉が初観測されています。シラカバ花粉については「札幌でたくさん飛ぶのはゴールデンウィークのころ。みなさんが外で活動する時期です」と平島さん。

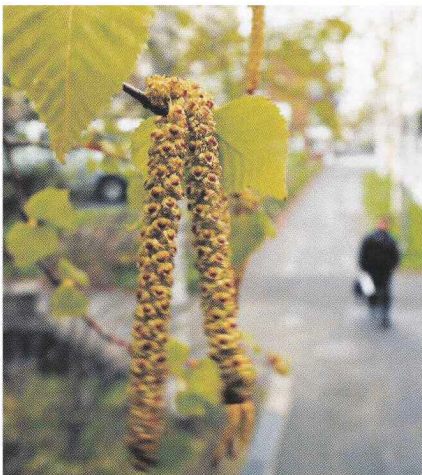
西部さんは「花粉は秋や冬にも飛びますか？」と質問しました。平島さんは「札幌では秋にヨモギの花粉が飛びます。雪が降る時期には飛びません」と答えました。



北海道立衛生研究所の屋上に設置している花粉観測機を見ながら、研究職員の平島洗基さん（右）に花粉の観測方法について教えてもらう西部菜花さん（中央）と辻尾慶太さん（3月25日）（中村祐子さつえい）

花粉症の主な予防方法

- マスクをする
- 花粉対策用のめがねをかける
- ぼうしをかぶる
- 外出したら、家に入る前に服をはらって花粉を落とす
- 帰宅後は手洗い、うがい、洗顔をする



花粉を飛ばすシラカバの雄花

平島さんは花粉症の予防方法「図」をあげ、「特に雨の後、天気の良い日に予防を意識してください。花粉に触れる機会をできるだけ減らし、家の中に花粉を持ちこまないようにしまし



けんぴ鏡で花粉を観察する西部菜花さんと順番を待つ辻尾慶太さん（左）

けんぴ鏡で見たよ!!

花粉はおしべでつくられるとても小さな粉のようなもので、めしべの先にくっつくと種ができます。このように花粉は植物が自分の子孫を増やすために大切な役割があります。こども記者の2人がけんぴ鏡で花粉を観察しました。

アカマツ

パンダみたい (辻尾さん)

エゾヨモギ

ゼリーみたい (西部さん)

イクラだ (辻尾さん)

シラカバ

ブルーベリーだ! (西部さん)

火山がくっついてるみたい (辻尾さん)

ハンノキ

五角形だね (西部さん、辻尾さん)